

エー A ジー G ファイブ 5 だよ

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業



「補習校バンク」の構想

AG5 運営指導委員・海外子女教育振興財団 教育相談員 佐々信行

AG5の活動に関わってくださった方は、補習校が「グローバル人材」を育てる絶好の場であること、そしてまだまだ大きな可能性を秘めていることをあらためて実感していただけていると思います。AG5が終わってもこの成果がひきつがれ、発展していくように「補習校バンク」のアイデアをご提案したいと思います。

先生たちの声

AG5が始まった二〇一七年に、補習校チームのメンバーがアメリカの補習校八校を訪問して先生方と課題や困っていることなどについて話しました。そのときに先生方からの声で特に強かったのは「相談できる相手がほしい」ということでした。

小さい補習校では一つの学年を担当する先生が一人だけという場合もめずらしくありません。中学校で教科担任制なら、国語一人、数学一人、社会一人といった具合になります。同じ立場の先生が他にいないので相談できず、それぞれが孤独で悩むしかないという問題がありました。

大きな補習校では一つの学年に複数のクラスがありますが、先生はぎっしり授業を持っているのが普通です。一緒に教材の準備をしたり話し合ったりする時間は限られます。授業後に研究・研修の場を設けている補習校は少なくありませんが、開催回数が十分にとれず、扱える内容も限られているのが現状です。

補習校の先生たちは二つ以上の顔を持っているので、補習校の仕事に使える時間は限られています。しかも、教員経験をほとんど持たずに教えなければならぬ場合もあります。

フルタイムの先生であっても難しい仕事を一人でやらなければならぬ大変さは、教員経験のない方にも容易に想像していただけたと思います。

仲間はいる

本誌二〇一九年の一月号「ただいま何人!」によると、「補習授業校」は二二四校(休校含む)、外務省の援助の対象にはなっていない実質的な「補習校」が二十五校あります。

勤務校では、例えば「三年生を教えるのは私一人」で相談できる人がいないとしても、世界中には同じ学年を教える先生が少なくとも三〇〇〜四〇〇人はいいます。また、相談相手になれる人は補習校の先生に限ることはありません。日本国内の先生、補習校のOB・OGなど、いろいろな人が考えられます。子供や保護者からもよいアイデアがもらえるかもしれないかもしれません。相談できる人は必ずいるのです。問題はその人をどう見つけ、どうつながるかです。

この解決策には近年の技術進歩のおかげでいろいろなことが可能になりました。私たちが始めた「補習校教員交流Toolbook」のメンバーはすでに一三〇人ほどになっています。二〇一八年度から、テレビ会議システムを使った報告会や研究会を開

いていますが、参加者は少しずつ増えています。九月に開いた「研究会報告会」には四十人ほどの参加がありました。今はまだ、あらかじめ登録していただいた方々への案内が中心ですが、少しずつ門戸を広げ、参加者が活発に話し合えるような環境を作っていきたいと思っています。

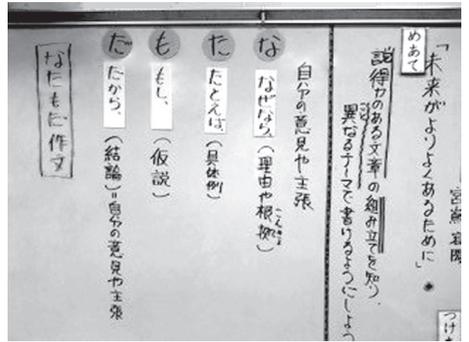
方法はある

授業を組み立てるときに解決しなければならぬ悩みは数々ありますが、解決策もいろいろと工夫されています。中には、まねるだけで自分のクラスが楽しくなるようなアイデアもあれば、そのままコピーして明日の授業に使える教材もあります。

AG5とダラス補習授業校で行った合同研究会では、「なたも作文」「サイコロゲーム」などの指導技術が注目されました。



「合同研究会」のワークショップ



「なだもだ作文」の板書

「なだもだ作文」は、「なぜなら」「たとえば」「もし」「だから」という言葉がこの順に使って自分の意見を主張する文を書いていくというものです。四つの言葉を示しておくだけで、文を書いたりスピーチを組み立てたりすることが容易になります。

「サイコロゲーム」は、あらかじめサイコロに話すテーマになりそうな言葉を書いておき、自分が振ったサイコロに示されたテーマで何かを話すというものです。どの目が出るかというドキドキ感を楽しめるので、グループ活動などに使えます。サイコロに書かれた言葉は見えるので、それぞれが話す内容を考えながら集中して活動ができます。

多くの先生たちがたくさんさんの場所

で考え出した指導法の中には、聞くだけで簡単に使えるものが少なくありません。一人では限界がありますが、アイデアを交換し合えばよい方法が案に見つかるかもしれません。

AG5の活動としてこれまででダラス補習授業校の先生方と作ってきた具体的な学習活動計画やワークシートなどの資料は、AG5のウェブサイトからどなたにでも入手していただけるようになっていきます。

もっと多くの方の力を借りて多数の計画案や教材などを蓄積できれば、必要なときに役に立つ材料がより手に入りやすくなってくるでしょう。

子どもたちの多様性

どの補習校でも深刻な悩みになっているのは子供たちの日本語の力が大きく異なっていることです。帰国を前提に学んでいる子供と当面帰国する予定のない子供のニーズの違いも状況を複雑にしています。

残念ながら、補習校に入学はしたものの途中で続かなくなってしまう子供もいます。日本語力が違っていても楽しく学習できる方法があれば、もっと多くの子供たちが補習授業校を続けられるかもしれません。

ダラス補習授業校の四年生の先生は保護者の方から「日本語があまり

得意でないので補習校に行くのをいやがっていました。今回の学習にはたのしく取りくめたようで、家庭でも積極的に準備をしていました」というお手紙をいただいたそうです。

このときの授業は「発見！ 私たちのテキサス」という単元で、テキサス州のことを調べてポスターセッションで発表会をするというものでした。

先生の説明を聞いたり、決められた文章を解釈したりする授業では、日本語が一定のレベルに達していなければ参加して力を伸ばすことはなかなかできません。反面、自分の力を使って調べたり表現したりする学習には、どんな子供でも自分なりに取りくむことができます。

補習校の場合、日本語力が弱くても英語力は十分という子供も少なくありません。テキサスのことを調べる学習は、英語力のある子には取りくみやすく、それを日本語で発表することに意欲が持てたようでした。

ポスターを作ったり、みんなの前で話したりするのはアメリカの学校でよくやる活動なので慣れていたという側面もあるでしょう。発表の準備の時にはお父さんやお母さんの応援も少なからずあったと思われま

日本語に不自由のない子供たちは、もちろん自信を持って積極的に取り

くんでいました。

「何を教えるか」より「どんな活動をさせるか」を考えて授業の計画を立てることで、一人ひとりが自分の日本語力を(英語力も)しっかり使って学習できたように思われます。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びアクティブ・ラーニングという視点からの学習過程の改善」が言われていますが、これもその一例と言えるでしょう。

日本の学校での指導法が補習校の先生たちの助けになるのはもちろん、補習校の実践が日本の先生たちの参考になることもあるのではないでしょう。国内の先生たちとつながれることにも大きな期待があります。

先生たちの多様性

補習校のスタッフは限られているので事情を忖度して担当を決める余裕はありません。例えば低学年の子供に接したことがない人がいきなり一年生を教えることになったら結構大変です。

私が日本の学校に勤めていた時、いつも交通安全指導に来てくれる警察官が急に来られなくなったことがありました。代わりの警察官は「本署管内の歩行者の事故の原因は……」という感じで話し始めました

が一年生には全く通じず、すぐに飽きた子供たちが騒ぎ始め、担任の先生が「通訳」に入って何とか授業を終えたことがありました。代役になった方には気の毒でしたが無理もありません。

小さい子とつき合う経験を積んだ人は一年生に分かるように話すコツを知っています。そのいくらかは経験のない人にも伝授できるのです。

「一度に二つ以上の指示を出さず、一つが終わってから次の指示を出すこと」「みんなではなく、わたしに、ぼくに向って先生が話しているような印象を持たせること」などと聞くだけでもいくらか話しやすくなるでしょう。具体的事例を交えればさらに分かりやすくなると思います。多くの補習校の先生たちがつながれば、一人の経験をたくさんの人に伝えていくことができます。補習校の垣根を超えて初任者研修会のような行事を行うことができれば新しい先生方の不安をいくらかでも楽にすることができるとしよう。

置かれている状況はそれぞれ違いますから、みんなが同じことを必要としているわけではありません。提供できる支援も人によって違います。提供する人と受け取る人がうまくつながることが必要です。先生たちは

世界中に散らばっているので時差の問題も解決しなければなりません。

いつでも必要な時にリクエストができるようにすることが理想です。

生活状況も刻々と変わっていきま

す。例えば小さい子供を育てている時は余裕がないのでほかの人の応援までは手が回らないかもしれませんが、少し時間が自由になるようになったら誰かの手伝いをしたくなるかもしれません。退職してゆつたりとした暮らしになれば、若い人の悩みにじっくりと答えてあげることが張り合いになることもあるでしょう。

提供できるものは、直接授業に関するものばかりではありません。長い間日本を離れていると、何気ない日本の風景に心を

和ませられることがあります。世界各地の写真や情報を見ると、同じように補習校で働いている人たちが遠くにもいる事実にも励まされます。補習校OB・OGや元補習校生からのメッセージは悩みの中にいる人を勇気づけるでしょう。

学校関係者や教員とは全く違う立場の方々からの新鮮な視点からの意

見は、思わぬ形で授業に活気をもたらすかもしれません。このようなつながりのイメージに、もっと適当な名前があるとは思いますが、仮に「補習校バンク」と名づけてみました。

見は、思わぬ形で授業に活気をもたらすかもしれません。このようなつながりのイメージに、もっと適当な名前があるとは思いますが、仮に「補習校バンク」と名づけてみました。いずれにしても、大勢の皆様仲間になっていただくことがこの活動に効果的にする決め手です。

補習校を知ってもらう

日本国内では「補習校」はまだあまりなじみのない存在ですが、補習校がどんなところかを分かってもらえれば、海外に住んでいる子供や海外に行く子供たちと付き合いのない人にも興味関心を持ってもらえるのではないかと思います。

今のところ、外国人の子供に日本語を教える先生等とつながりができてきたところですが、補習校のネットワークが日本国内にも広がっていくことは大きな意味のあることです。

IT等の技術進歩のおかげで、物理的にどんなに離れていても工夫次第でつながりを持つことができます。AG5と補習校の皆様との活動が日本の子供たちの教育に新しい風をもたらすことになればうれしいです。

「補習校バンク」(仮称)のイメージ

